

要綱決定・入園受付開始 東村山むさしの保育園



「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」に関わる省令・告示・通知等の下で運営される「認可保育所」

幼稚園単独型の認定こども園の認定を受けている「東村山むさしの幼稚園」を前身とし、隣接地にて着々と建設が進んでいる東村山むさしの保育園。認定こども園自体、市内では未だ唯一であり、幼保連携型においては東京都下にもさほど例を見ませんが、平成 25 年度より「東村山むさしの幼稚園」と「東村山むさしの保育園」にて構成される「幼保連携型」の認定こども園としてスタートを切る予定です。

「私立認定保育所」 認定こども園を構成する認可保育所は、「私立認定保育所」と呼ばれ、新たな法制度の下での運営となります。一般の認可保育所とは異なる点も多く、私立認定保育所の利用については、利用児童や利用料の決定に関しても、法律上、直接契約によることとされており、市町村が利用児童や利用料を決定することはできません。その理由としては、教育・保育に対する需要の多様化に対し、幼稚園や保育園が地域の実情に応じ、施設の特色に応じつつ、柔軟に対応することを目的として創設されたという背景があることが伺えます。

さて、このように、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」に関わる省令・告示・通知等では定められているのですが、柔軟な利用児童や利用料を施設で決定することは軒並み管轄の市町村との協議により困難な状況であり、各施設の様子では、これまでの認可保育所へ右へならえの様子を感じています。その理由は、認可保育所のおおむねの管轄が厚生労働省であり、前例の少ない私立認定保育所は、今まであった認可保育所の規則に当てはめられている部分が多いからだと感じています。様々な施設形態を持つ幼稚園や保育園が、国の進める認定こども園へ向けて準備を進めようとしている中においては、そこにはもちろん、様々な施設や環境が存在します。そのうえで、地域の実情に応じ、施設の特色に応じつつ、柔軟かつ確かな形態により、環境やサービスに応じた利用形態を決定することは、とても大切であり適切な設定要素かと思われまふ。

良き環境構築を目指して
教育・保育、ともに、より

長らく、様々な資料提供等も経つつ、保育機関・教育機関・行政の担当とも意見交換も重ねて来ました。そして、関連法案、また、それに関する省令・告示・通知等を熟読し、東村山市とも協議を重ねた上、多大なご理解とご協力、そして、先々に対する真摯な視線のもと、独自の利用児童の決定および利用料を設定することに至りました。市内に存在する様々な教育・子育て施設とのバランスはもとより、様々な存在するニーズに対し、多様に準備された受け入れ施設を用意する必要があります。その観点においても、幼稚園か保育園の選択肢しかなかった中で、「既存の幼稚園」-「保育環境にも充実した幼稚園」-「教育環境も備わる保育園」-「既存の保育園」という選択の枠が実現できると考えています。

さて、決定した要綱におきましては、法律上、「認定こども園の認定を受けた保育所の利用については直接契約によることとされており、市町村が利用児童や利用料を決定することはできません」とされ、「市町村が定める選考基準と必ずしも同一である必要はない」と明記こそされていますが、児童福祉施設としての性格にも鑑み、利用料については、様々な世帯状況に合わせた市の保育料基準をベースに設定しました。また、入園選考については、幼保連携型認定こども園の趣旨である「一貫した教育及び保育」の提供や、教育と保育の別施設による弟妹の分断の解消などを含め、「東村山市保育の実施に関する規程」も参考に行うこととしました。

またまだ例も少なく検討要素の多い幼保連携型の施設。今後も、常に実情への分析をしつつ、検討を重ね、幼稚園は幼稚園らしく、保育園も保育園らしく、かつ、幼児教育を支える保育部、また、保育を支える教育部として、その連携により相互の可能性の枠を広げ、教育を望む子どもにも、保育を必要とする子どもにも、そして、地域の子どもやご家庭に対しても、より良き教育と保育の環境を構築し、提供できるよう、研究や工夫を重ねていきたいと思っています。

筆者紹介 東村山むさしの 認定こども園



園長・野澤貴春

1971年1月、市内廻田町に生まれる。
1983年、東村山市立回田小学校卒業。
1986年、同、東村山第四中学校卒業。
1989年、明星高校卒業。
1993年、中央大学・法学部卒業。

法律・政治を学ぶ傍らスポーツ活動にも力を入れ、日本代表にてモスクワへ。大学卒業後は、コンピュータ、医業、金融など様々な接点のもと実業団にて選手活動や広報・開発などにかかわる。
国民体育大会や全国大会にて優勝ほか入賞多数、東京都スポーツ優秀選手賞等、多々受賞。

中学校教諭・高等学校教諭免許、大型自動車運転免許、Microsoft Office Specialist、等取得。
1997年、学美化に合わせ、学校法人野澤学園勤務。
2008年、同園、事務長を経て園長へ就任。



「(仮称)むさしのワールド」

アートナビゲーター Yuzie Tsukamoto 作

日本大学芸術学部卒業後、単身フランスに放浪の旅。JWDA 日本 WEB デザインアワードノミネート。「観る人のその瞬間を笑顔にしたい。そんな想いで日々イラストを描いています!」くもん出版、リクルート、AEON、その他イラスト採用多々。『あしたの あしたの またあした』… NHK おかあさんといっしょのイラスト作者。



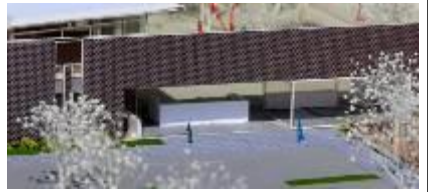
ショップも開店!?

幼稚園と保育園の正門、いわば学園正門が駐車場の奥に移動します。そして、来年度 4 月、その横にショップが開店する予定です。これまで、制服や教材など様々な物品を主に教職員が扱っていたのですが、手に取ったり、目で見ていただけるよう、購買部を独立させることにしました。教職員の業務効率化や保護者の皆様にも利便性が増すことの狙いと、また、もうひとつ狙いがあるんです。

そう、このお店からは園内の雑木林が一望できるんです。そして、学園正門や駐車場をも見渡すことができる構造としてあります。明るく楽しく素敵に便利に、そして、園内の安全管理にも役立てたいと考えました。

ここには、園内の教育活動の広報の場として子ども達の作品を展示したり、ポスターを展示したり、また、子育てに役立つ雑貨や教育に役立つ絵本なども置きたいと考えています。

そして、課外教室や園庭開放にて、日々、卒園児たちもたくさん遊びに来ます。文房具店の無いこの周辺。小学生の文房具やノートなども置いてあげたいと考えています。



雑木林にはオープンカフェ!?

厨房から雑木林へは、オープンカフェ風のデリバリースペース。行事や地域のイベント等において活用できるのではないかと。そう、心地良い空間とは、人々にとって大切な心を育む環境要素。施設を無駄にしない。設置するなら多様な活用を。そういった工夫や努力は、合理化と効率化を実現しつつの機能向上に結びつくものだと思っています。他にも、ふたつの施設が共有地や統合部署などを設けることで、両施設、10であった負担が5に、管理費も1/2に。保育園児にも幼児教育をとの願い、また、幼稚園児にも環境の良い長時間保育環境を与えるための構築と同じように、様々な効果をもたらす、いわば企業努力的なものだと考えます。そのような、機能向上を実現しつつの合理化と効率化への努力は、様々な無駄を省き、経費も削減でき、それはいずれ、環境の維持や向上のみならず保護者負担の軽減や勤務待遇の向上、また、厳しい将来社会の財政や経済状況の先行きをも見据えつつ、より良き環境の維持や向上にもつながる大切な経営感覚かと信じています。



計画が始まり、ほぼ一年。休日も休み無しの一年でした。しかしながら、むさしのの教育・保育、そして環境を選んでくださる皆様の笑顔を楽しみに、今後も創意工夫にて努力していきたいと思っています!

むさしのの
が園長
の書く
新聞
Vol.3

幼保を取り巻く現場からの情報誌。私的な思考も含めた乱筆なる走り書きの紙面であり、誤字脱字、誤記、誤解等あるかもしれませんが、ご容赦頂きたいと存じます。



ドキュメンタリー

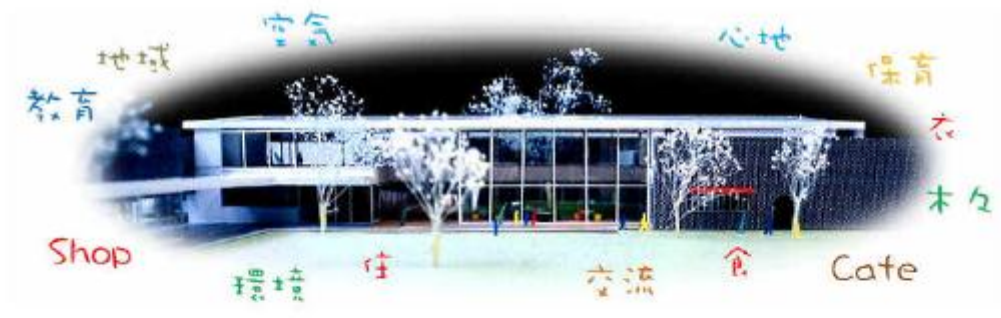
子どもと社会と家庭と制度。歴史と土と緑と空気。そして、人と自然と、マテリアルの融合。

様々な分野から、その英知を集約し、実行される JV (Joint Venture)。

そこに人がいる限り、誰もにとって、心地良き空間を創りあげる。歴史を、環境を、本物を。それが、人の心を豊かにする、極めて大切な要素だと感じています。そこに、人間本来の心の豊かさを目指した、空間の創造が始まりました。



自然豊かな雑木林を有す、東前山むさしの幼稚園。建学の精神を守りつつ、常に変わり行く社会情勢に対し、子どもの育ちの環境づくりを目指して来ました。変わり行く社会情勢の下、教育を行う上での様々な子育て環境を支えるべく、預かり保育を開始。そして、市内初の認定こども園認定取得を経て、このたび、隣接地に保育園新設の運びとなりました。



そう、私たちが創ろうとしているもの... それは、真の理想を目指した、「教育・保育の施設」です。

幼稚園児と、そのご家庭にも、保育を必要とする場面は、多々あるんです。保育園児と、そのご家庭も、就学前教育を望んでいる人達がいるんです。そして、人の心に響く、全ての環境。

様々な人達が、よりよき子育て環境を求めている声や、制度下における様々な制約により分断された幼保の世界に、独自の新たな施設展開を築こうと、このたび立ち上がりました。

幸いにして、熱意ある関係各位にお集まり頂き、2011年10月、長年に渡り夢を描いてきたプロジェクトが動き出しました。

建設会社



420余年の歴史で培われた英知を生かし、新しい時代の文化と豊かさを創造します。

歴史的建造物と近代建築の創作 ... 松井建設

弊社は、1586年(天正14年)の創業以来420年を超える歴史の中で、「社寺建築」で培ってまいりました豊富な経験と高度な技術に加え、先を見据えた技術の研鑽を積み重ね、神社仏閣はもとより、あらゆる建造物を提供することにより、より良い生活環境の創造と、活力ある社会経済の発展に貢献してまいりました。

近年、企業をとりまく環境は絶えず変化し、厳しさも一層増しておりますが、建設業界も常に不況や危機に見舞われる体質にあり、社会の動きに機敏に対応し、変革することが強く要請されております。

これからも弊社の基本的経営姿勢である『質素』、『堅実』、『地道』を守り、また、「人々の心を豊かにする新しい文化の創造」という理念のもと、建設業を通じて新しい時代だからこそ求められる「心の安らぎ」を得られる提案に向けて努力してまいります。

そのためにも、社是である『信用日本一』を常に念頭におき、「品質」、「環境」、「安全」を第一に考えながら、常にお客様に満足していただける高品質の建物をご提供し続けてまいります。



建築士



懐古と近代の融合 ... 呉屋彦四郎

1959年1月生れ 東京藝術大学大学院美術研究科 修士課程修了 在学中 建築家トーマス・パウルに師事(在ローマ) 1989年 谷口建築設計研究所 入所 1995年 月野健三・都市・建築設計研究所 入所 1999年 株式会社アトリエ9建築研究所 代表取締役就任 資格 一級建築士 日本建築家協会正会員・東京都建築士会会員

私たちは伝統性と先進性をテーマに都市・建築のデザイン活動を行っています。日本人が創ってきた建築空間を思うとき、その建築が周辺の自然を上手に取り込みながら非常に想像力豊かな情景を作りだしていることを感じるのです。太陽や風や雨からの自然の恵みを、巧みな工夫で取り込んだり調整したりと先人は見事に伝統的な知恵と手法を用いて豊かな建築環境を創り出してきました。建築の内と外との連続する空間やそこに差し込む光やそこに流れる風などの伝統的建築物の中に見られる人間と自然との密接な関係の中に、先進的な建築の可能性を感じています。私たちは、ここにスポットをあてて新しい建築の創造に取り組んでいます。単に回顧主義的に古い様式をなぞるのではなく、古いものと新しいものとを匠に組合わせて、現代の社会生活を豊かにするデザインを目指しています。そしてそれは次の世代に受け継いでいくものとして考えています。



設計経歴

1989~1995 (谷口建築設計研究所・担当作品) 日本IBM 幕張ビル設計監理業務 慶応湘南藤沢中・高等学校 東京都豊島区海公園水上バス待合所 東京都豊島区海公園展望広場レストハウス

1989~1995 (月野健三 都市・建築設計研究所・担当作品) 丸の内線新線地利用計画国際コンペ(イリア) スピックイ米軍基地跡地利用計画国際コンペ1等賞(マイピン) 阪神淡路大震災復興事業 世界保健機構(WHO)神戸センタービル ロストロボビーチ自衛隊改修工事(03/7) 八女学院体育館 芥子・スノースクール国際コンペ(シガール) ペアーズパワジャパン カントリークラブ

1996~ (アトリエ9建築研究所) 京町共立病院転換型病棟併設建築工事 特別養護老人ホームえびの涼園園地建築 東京都府中市朝日町身体障害者療養施設 折野医院 御泉性高齢者グループホーム悠悠 H市グループホーム 積和記念病院施設総合計画 疾病予防運動施設 アクア京町 鬼怒川金谷ホテル・温泉ホテル改修工事 日光英陽苑増築工事基本構想 S市スバホテル計画 S市イベントスペース計画 赤坂ビル計画 長野県北軽井沢ホテル計画 Kリゾートホテル計画 M病院救急医療センター計画 幸手市S幼稚園 幸手市H幼稚園 一宮市M保育園

Planner

異色7の園長 ... 野澤貴春(私立幼稚園・園長)

1971年 (昭和46年) 東京都生まれ 1983年 東京都立立川小学校卒業 1986年 東京都立立川第四中学校卒業 1989年 明星大学卒業 1993年 中央大学法学部卒業 1997年 製造、営業、コンピュータ、金融、様々な企業との提携や所属、実業団生活を送る。 2008年 東京都立むさしの幼稚園勤務 同園、事務長を経て、園長へ就任。 長きものを愛しへと邁進する日々。異色の園長と言われる事多々。



学生時代からスポーツ活動にも力を入れ、実業団にて選手活動。 国民体育大会入賞数回。 ジュニア世界選手権日本代表。 東京都スポーツ優秀選手賞等受賞。 中学校教諭一職免許 高等学校教諭一職免許 大型自動車運転免許 Microsoft Office Specialist 等取得。 好きな言葉：感性、分断、アナログ、平韻。 万物がアート。今を生きて。 趣味：芸術、写真、モノや風景を眺める。 スポーツ、生きること。

< 加盟団体他 > ■東京都立むさしの幼稚園/園長 ■東京都立むさしのこども園/園長 ■全日本私立幼稚園連合会 ■東京都私立幼稚園連合会 ■東京都私立認定こども園協会/東京都支部長 ■東京都立むさしの幼稚園連絡協議会 ■東京都立むさしの幼稚園協議会 ■東京都立むさしの幼稚園・第5分園/会計・筆頭班長 ■中央大学学員会 ■中央大学学員体育会 ■星村会(明星学苑同窓生ネットワーク)

< 計画への主な足跡 > 1998年 預かり保育、開始。 2002年 預かり保育、専用園舎建築。 2006年 預かり保育、目こ契約開始。保育部として独立を目指す。 ※これまでも、教職研修で各地の幼保一体型施設を視察。「保育」は「教育」。「長き時間、親の元を離れる子どもに対し、教育と、家庭の代わりとなるべき保育を分離し、子どもの精神面における緩急を考慮、独立化を進める。」 2009年 東京都認定こども園協会入会。制度改革の進行に直じつつ、幼保の形態を探索し、計画の具現化を始める。 2010年 市の依頼を受け、幼稚園単体認定こども園認定(市内第1号、都内34番目) 先々の確保一歩化に向けて、新制度への過渡を創るといふ意図も。 熊本市、南関こども保育園(地方行政を動かす公設民営の実現)、南関ひまわり園(幼保一体型・完全全園施設)、紅葉幼稚園(園内に1~2才保育所、全日私立連合会副会長・理事)など、全国各地の多様な施設を訪ね、情報、検証を進めるとともに、各地での様々な現状を考察。幼保の良き連携に向け、統合施設の意義ある形の新築とともに行政に働きかけを行う。 2011年 子ども育成課来園。市内の幼保システムに関し意見を述べる。独自の事業提案。 公明党、自民党、両都議会議員と懇談。都の制度改革について助言。 旭ヶ丘幼稚園・あさひの森保育園(並列型・同一施設内、幼保分離施設)、訪問、懇談、検証。 市議会にて私立幼稚園への1~2才保育所の協力方針を市長が表明。 市内私立幼稚園連絡協議会にて、子ども育成課来園より、1~2才保育所の協力要請発表。 行政担当者と懇談・検証。市長決定を仰ぎ、私立幼稚園連絡協議会、議会、順次計画を公開。 ジャクエツ担当、sticker9 呉屋氏、園訪問、口頭にて事業スタートの確約。 2012年3月 着工 2012年8月 全国幼稚園・保育園関係者向け講演として講演。